

グローバル人材育成のための国際交流活動

岡山県立岡山城東高等学校 グローバル人材育成プロジェクト実行委員会

活動の目的

- 生徒の知的好奇心・探究心を醸成するための指導法の研究・開発
- 「世界につながる視野」を醸成するための交流プログラムの深化
- コミュニケーション力とチーム力を身につけ、主体的・協同的な活動を活性化するための指導法の研究・開発

活動の内容及び経過

- (1) 事前研修
 - 講演会の実施……平成29年6月14日 13:55～15:35
演題：「マレーシアの文化」
講師：株式会社イト・ビー 代表取締役 笠井 賢
 - 探究的学習……学類研修出発までの授業（「GLOBAL II」や学類専門科目）で、研修先の文化や歴史などについて探究的学習を行い、研修先で理解が深められるようにした。また、本校を紹介するためのプレゼンテーション資料を作成した。
- (2) 現地での研修
 - ◆マレーシアコース……平成29年6月19日（月）～6月23日（金）
人文社会学類・理数学類
 - 交流事業：マレーシアコースでは、人文社会学類がSri Aman高校と、理数学類がAlam Shah高校と交流を行った。また、人文社会学類・理数学類共に、マラヤ大学のAAJプログラムの学生と交流を行った。
- (3) 事後研修
 - 学類研修発表会……平成29年11月8日（水）
各コースの代表生徒が、研修内容をプレゼン資料で紹介し、研修の成果を共有した。

活動の成果・効果

海外研修では、事前学習で訪問する国の文化について知識として触れ知的好奇心を高められるようにしている。そして現地に行き実際にその文化に触れると、好奇心が探究心へと変化し、さらに深い学びにつながっていく。また、海外に関する学習プログラムでは、生徒が発信する場を持つことに重点を置いている。現地の交流では、日本の文化を紹介することや、自校で研究している内容について発表することを必須としている。発表形態はコースにより様々だが、いずれにしてもよりよい表現になるようチームで協力してプレゼンを行うことで、コミュニケーションの本質について深く考えることにつながっている。多様な文化についてより深く、実感を伴ったものとして学ぶことを通して、一人一人世界に視野が広がるとともに、自分事として世界の出来事に目を向けられるようになっていく。この学習のプロセスは、生徒自身が自分の学びを実感させるために極めて効果的であるといえる。

<生徒の感想から>

学類研修から半年ほどたった今も、マレーシアの素晴らしさは全く頭から消えない。マレーシアは多民族国家で、国民が信仰する宗教も



多種多様であるうえに、植民地時代の名残でたくさんの国の料理や建物に出くわす。イスラム教のモスクのすぐ近くに仏教の寺院。その前にはオランダが建てたヨーロッパ風建物。そしてキリスト教の教会。街を歩けば中華街やインド人街。360度見渡して、とても同じ国とは思えず、違和感一杯の不思議な気持ちになった。宗教や文化がいろいろだからこそ、みんなそれぞれを尊重し合っている。公共施設での服装は厳しいルールがある一方で、中華系の方がマレー系の伝統工芸品を売っている。みんなで生きていくという優しさと強さを感じる素敵な国だった。私は今回の学類研修で海外の友達を作りたいと思っていた。たくさんの人に出会い、今、彼らとはSNSで繋がっている。世界に友達ができただけでなく、また、この5日間で多くの発見をした。マレーシアを知り、好きになった。そしてそれ以上に日本が大好きになった。日本の安心安全を実感したし、日本人にはマナーや表情など周りに気を配るような大きな優しさがあることも感じる事ができた。私自身、新しい世界を知り、どんな人になりたいか、どうあるべきかを考え、ひとつ成長することができたと思う。これほど貴重な体験ができたことを心からうれしく誇りに思う。

今後の課題と問題点

誰かに何かを伝えるには、伝えようとする意欲を伴った「伝えたい内容」をしっかりと持つことが前提である。伝えたい内容を持つということは、言い換えれば生徒に自分の考えを持たせるということである。海外での体験を通して、生徒は自分にそうした力が不足していることを実感して帰国する。従って、伝えるために必要なスキルが何かを生徒自身が意識して高められるような指導の工夫が必要であり、論理的思考力や批判的思考力を向上させるための指導法の開発を継続して行う必要がある。

- 代表者：浅沼淳 ●所在地：岡山市中区下
- TEL：086-279-2005 ●E-MAIL：joto@pref.okayama.jp
- URL：http://www.joto.okayama-c.ed.jp
- 設立年：2012年 ●メンバー数：12名